

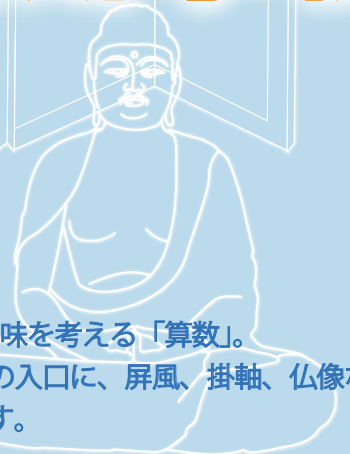
# THE A MUSEUM

Vol.7-1 第19号 2012.6.27

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

企画展

## サマースクール にほん美術夏期学校



絵で物語をたどる「国語」、数の意味を考える「算数」。  
おなじみの「学校の教科」を鑑賞の入口に、屏風、掛軸、仏像などの  
日本美術を気軽に楽しむ展覧会です。

平成24年7月14日(土)～9月2日(日)

## 新たな飛躍に向けて

歴史と民俗の博物館は、昨年開館40周年という節目の年を迎えました。

記念事業として開催した特別展「円空 ころを刻むー埼玉の諸像を中心にー」も、全国各地から来館していただき、平成18年の博物館再編以降で最高の入館者数を記録しました。充実した展示が博物館の命であると改めて感じました。

また、3か年に及んだ大規模改修も無事終了し、施設も大きくリニューアルすることができました。館内が明るくなり、トイレもきれいになったと大変喜ばれています。

しかしその反面、改修工事による長期休館の影響もあり、学校団体の利用が大幅に減少してしま

いました。今後は、学校が利用しやすい、授業内容にマッチした体験メニューの開発や見学プランの作成にも取り組み、子どもたちにも大勢来てもらえる、そんな博物館にしていきたいと思っています。



今年は、当館にとって「新たな飛躍の年」となります。職員一同、県民に親しまれる魅力ある博物館づくりに向けて努力してまいります。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

(館長 銭場正人)

サマースクール

# 企画展 にほん美術夏期学校

平成24年7月14日 土～9月2日 日

当館は「歴史と民俗の博物館」ですが、実は、江戸時代以前の日本の美術品も収蔵・展示していることをご存じでしょうか。

屏風、掛軸、絵巻、浮世絵、仏像、陶磁器、漆工品……。こうした日本の古い美術品の展覧会を見に行き、解説の用語がむずかしい、どう鑑賞してよいか分からない、なんとなく敷居が高い、などの印象を持った経験はありませんか？

美術品のテーマや作者、伝来といった情報を知るのも楽しいのですが、その前に、まずはゆっくりと美術品に向き合い、仲良しになってもらおう、というのがこの展覧会です。

現代では、掛軸や茶道具があった生活を想像することはむずかしくなっています。そこで視点を換え、今の多くの人々が持つ身近な体験やイメージに日本美術を引き寄せてみる一つの方法として、国語、算数などの学校で習う教科を手がかりとしました。

## ■国語

「祇園精舎の鐘の声……」で始まる「平家物語」を題材に、ひと味ちがう古典文学鑑賞をします。平家物語は、江戸時代に多くの絵画作品のテーマとなりました。

ここで中心となるのは屏風に描かれた源平合戦の絵です。高さが人の身長ほど、横は約7メートルにもなる大画面に、源平合戦のいろいろなエピソードを描きこんだものもあれば、一つの場面をクローズアップした「一の谷合戦図屏風」(図版1)のような作品もあります。右に扇を開いて呼び止める武蔵武士・熊谷直実、左に振り返る平 敦盛を描きます。扇の形を象徴的に使っています。

物語を流し読みしたり、または一つの章をじっくり読んだりするような楽しみがあります。

## ■算数

美術品には数が入った名称の作品が多くあります。「富嶽三十六景」「近江八景」「十二天像」……。この数は単に個数を表すのではなく、縁起の良い数であったり、方位の数をあらわしていたりします。

また、美術品に表現された図形にも注目しましょう。幾何学的な文様は、画面や装飾に心地よいリズムを生み出します。丸や四角を巧みに使った装飾が美しい「丸紋散象嵌鍔」(図版2)はその一例です。

1 一の谷合戦図屏風  
海北友雪 江戸時代  
埼玉県指定文化財  
※展示期間  
8月7日～9月2日



2 丸紋散象嵌鍔  
江戸時代



↑ 熊谷直実  
← 平 敦盛



◆時間 9:00～17:00 (観覧受付は16:30まで)  
※9月1日、2日のみ9:00～16:30 (観覧受付は16:00まで)

◆休館日 月曜日(7月16日は開館)

◆観覧料 一般400円、高校生・学生200円  
※中学生以下と65歳以上の方、障害者手帳等をお持ちの方は無料

## ■理科

日本美術では「自然」はとても大切なテーマです。美術品の中で生きる生物や自然の風景を観察しましょう。

丹念な観察のもとに作られたと思われる作品もある一方、「猫絵」(図版3)のように特徴をよくとらえて単純に表現した作品もあります。作者たちの目には、どのように風景や生物が見えていたのでしょうか。そんなことも想像しながら、お気に入りの作品を見つけてください。

## ■社会

ここでは、描かれた光景や人物から、その背景にある社会を想像してみます。「南蛮屏風」(図版4)の、大きな船はどこから来たのでしょうか。描かれている人々の服装は？ この屏風は江戸時代の作品ですが、それよりも少し前、南蛮貿易が行われていた頃の港町の様子を描いています。南蛮船や中国船、南蛮人たち、建物の中で商売に励む人々の様子から、活気にあふれた町の様子が伝わってきます。

## ■図工

機能的には物を入れられればよい「入れ物」を、人はなぜ美しく飾るのでしょう？ ここには、さまざまな装飾が施された昔の「入れ物」がたくさん集まっています。豪華な蒔絵の手箱から、小さな印籠、刀を納める拵など、いろいろな入れ物を集めました。

物語や情景を題材にした装飾が多く見られます。「秋野蒔絵文庫」(図版5)は、箱全体に、扉を開けるとまたそこに、萩や桔梗、ススキといった秋草が蒔絵で表現されています。

## ■体育

「人の姿」がテーマです。人のようではない人ではないものを表現している仏像(図版6)。仏の姿は、32の大きな特徴があるとされています。どこが人の姿と違い、どのように表現されているのでしょうか？

また、いろいろな動きの人の姿を描いた作品も展示します。時にこっけいなほど動きが誇張されているものもあり、思わずまねをしてみたくなるかもしれません！

本来、どのように見て、感じて自由なのが美術品の魅力です。この夏は、ぜひ博物館で日本美術を気軽に楽しんでください。

(展示担当 池田伸子)

## ☆展示解説のお知らせ

日時：毎週土曜日 13:30 から約30分

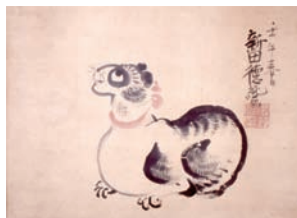
集合場所：当館 特別展示室入口

事前申込不要 定員なし

※企画展観覧料が必要です。

☆期間中、一部展示替えを行います。

3 猫絵 新田徳純 江戸時代



4 南蛮屏風 江戸時代



6 木造阿弥陀如来坐像 平安時代



5 秋野蒔絵文庫 明治時代

※掲載写真はすべて当館所蔵です。



# 新収集品展 2010・2011

博物館の使命の一つに、資料を収集し、保存し、今の世代だけで損なうことなく、次の世代まで継承していくことがあります。当館でも、昭和46年の開館以来、埼玉の歴史と文化にかかわる多種多様な資料を積極的に収集してきました。現在では、その数12万点を超えています。これらの資料は主に寄贈資料と購入資料からなっています。

「新収集品展2010・2011」は、平成22年度と平成23年度に6名の方々から寄贈された資料と、新たに購入した資料を展示したもので、平成24年5月12日（土）から6月17日（日）まで開催されました。これらの資料の中から主なものをいくつか御紹介します。

## 旗本稲生氏関係資料 158点

稲生氏は三河譜代の旗本で、徳川家康の関東入封後入間郡多和田村（現坂戸市）等に500石の知行地を拝領し、江戸中期には1500石を有しました。正保2（1645）年に没した正信は多和田村正信庵の近隣に葬られました。現在の正信庵は近代に建て替えられたものですが、本資料は正信庵に残されたものです。陣羽織、帷子などの衣装類、旗指物類、鍔などの刀装具、文箱、女性用装身具、香道具などです。



陣羽織

## 鯰絵（難獣）

幕末に起きた安政江戸地震の後に出された瓦版です。遊女の顔に見立てていますが、頭は蔵の屋根、顔の輪郭は物差し、眉は櫛、口は鋸、背は家の屋根、足の爪は左官のコテといった具合で、地震はこの難獣が引き起こしたとされ、上半分には江戸の被害状況が詳細に記されています。



鯰絵（難獣）

## 産育関係資料 17点

秩父地方の産育習俗に関する資料です。妊娠・出産の資料には、妊娠5か月目に着用する腹帯、出産後のへその緒、えな壺や一緒に埋める埋納品。生育の資料としては「セッチン参り」に使用する産着（うぶぎ）と土産、同齡者の死の忌みから身を守る耳ふさぎ、丈夫な体をつくる百軒着物（ひゃくせんちやく）、疱瘡を避ける疱瘡ながしなどです。



百軒着物

## 雑兵物語

江戸幕府老中で川越藩主の松平伊豆守信綱の五男・信興（のぶのり）が編さんに関係したといわれる書物です。雑兵の戦場での経験を語らせたもので、合戦から遠ざかった武士層の教科書として多数の写本が作られました。本資料は天保8（1837）年に書写されたものです。（資料調査・活用担当 田中正夫）



雑兵物語

## 県立博物館施設連携 自然の博物館紹介 ミニ展示コーナー

県立博物館施設には、博物館相互の連絡調整にあたる県立博物館施設総合調整推進会議と呼ばれる機関が設けられていて、例えば博物館評価制度の導入や、学芸員研修の実施、ホームページの運用をはじめとした広報活動といったように各博物館の専門分野を超えた共通の課題解決や事業連携に取り組んできました。

ここに紹介する自然の博物館の出張展示も、そうした活動のひとつです。長瀬町にある自然の博物館が施設改修のため長期休館（平成23年9月1日～24年10月5日）に入ることになったことから、各博物館施設等で展示スペースを用意し、昨年の夏頃から継続して出張展示を開催してきました。

また、こうした展示事業に合わせて、展示解説や、講座、見学会、ワークショップ等、自然の博物館の学芸員による出前イベントも行われました。

歴史と民俗の博物館の「秩父の地質と博物館」と題した展示は、大正10年に秩父鉄道株式会社が開設した「秩父鉱物標本陳列所」に始まり、以後「秩父自然科学博物館」、「県立自然史博物館」を経て今に至る自然の博物館の歴史を紹介しました。

6月17日まで行われていた「埼玉の多様な動物たち」では、動物の剥製標本を展示しました。なかには「ヤマネ」や「カワネズミ」といった実物を見ることが非常に難しいものもあり、皆さんにご覧いただく良い機会となりました。また、「さわれる動物剥製」コーナーでは、「アライグマ」、「ウサギ」、「タヌキ」が揃って、子どもたちを迎えてくれました。

なお、自然の博物館は、平成24年10月6日（土）にリフレッシュオープンします。

（企画・学習支援担当 鈴木秀雄）

### ●各県立博物館施設等の展示実績一覧

博物館等	タイトルと期間	博物館等	タイトルと期間
歴史と民俗の博物館	秩父の地質と博物館+アメンボワールド (23/8/2～12/1) 埼玉の多様な動物たち (23/12/2～)	嵐山史跡の博物館	アカトンボ(23/8/30～12/1) カエテ&もみじ(23/12/2～24/2/4) 写真で見る地質学 (24/2/5～4/2) 春の植物 (24/4/3～)
さきたま史跡の博物館	秋のきのこ (23/9/14～24/1/16) 秩父の地質の見どころ (24/1/17～24/4/3) 山地の植物 (24/4/3～)	近代美術館	岩石の変形 (23/9/14～)
文書館	荒川が刻んだ秩父の地形 (23/6/1～12/2)	県庁廊下 / 教育委員会室	県民の日合同展示 (メタセコイアの四季) (23/11/14)



自然の博物館紹介 ミニ展示コーナー



「さわれる動物剥製」コーナー

# 歴史のしおり 東西を旅した仏典

当館では、鎌倉時代の建長8年（1256）に作られた高野版の「釈摩訶衍論」という資料（以下「本資料」）を所蔵しています。「高野版」とは、主として鎌倉・室町時代に高野山（現和歌山県高野町）が出版した木版刷りの書物を言います。「釈摩訶衍論」とは、密教である真言宗で重視された仏典の一種です。

本資料は、室町時代の著名な真言宗僧である印融（1435～1519）が所持していたものです。印融は、武蔵国久良岐郡久保（現横浜市）の出身と言われ、鳥山三会寺（同市）にて密教の伝授を受け、文明元年（1469）に高野山へ登って無量光院という寺院に入ったと考えられています。のちに関東へと戻り、永正16年（1519）に85歳で亡くなりました。浦和の玉蔵院を再興したとされるなど、埼玉にもゆかりのある人物です。彼は弘法大師の再来と言われるほどの大変有能な僧で、自ら多くの著作をのこしたほか、ぼう大な書物を収集・書写しました。本資料も、その中の一つであったと考えられます。

それでは、本資料について詳しく見てみましょう。「釈摩訶衍論」は、本来全10巻構成ですが、本資料は巻第十を欠いています。各巻の表紙には、題名のほか、「印融」「覚證院」という墨書が見られます。これは、この書物の所持者を示すものと考えられます。

印融の孫弟子を称する賢勝という僧が記した奥書（筆者や来歴などを記したもの）には、この書物はかつて三会寺の印融の所持本であったこと、賢勝自身が天文7年（1538）に高野山へ入寺した時これを携えていったこと、が見えます。

こうして、本資料は印融の没後、関東から生まれ故郷の高野山へ戻ったのです。

本資料は漢文で書かれた仏典ですので、読みやすための仮名や返り点、声点（読みの清濁などを示す符合）といった記号が多く書き込まれています。これらは印融の自筆と考えられていますが、中でも注目されるのは「円堂点」です。「円堂点」とは、主に仁和寺（現京都市）・東寺（同市）・高野山などの真言宗寺院で使用されたヲコト点（漢文訓読のための符合）の一種です。真言宗を究めた印融が使用するヲコト点として、大変ふさわしいものと言えるでしょう。

また、本資料で注目されるもう一つの点として、奥書付近に見られる墨抹（墨塗り）があります。何度も強く塗り重ねられているため、もともと書かれていた文字ははつきりとは分かりませんが、どうやら「覚證院」「聖□□院」などと読めそうです。「覚證院」は表紙にも記されていた寺院名で、詳細は不明ですが、印融・賢勝よりも後の本資料の所持者であったと思われる。「聖□□院」も同様に考えてよいでしょう。他に、蔵書印も2種類確認できます。墨塗りは、所蔵者の変遷にともなう付けられたものではないでしょうか。

このように、本資料は、鎌倉時代に高野山で印刷され、室町時代に印融所持本として関東に所在したのち、賢勝とともに高野山へ戻り、さらに複数の所蔵者の手を経て、当館へ収蔵されることとなったのです。長い年月にわたり、日本の東西を旅してきた仏典と言えるでしょう。

（展示担当 根ヶ山泰史）



「釈摩訶衍論」巻第五 巻首



巻第八 奥書と墨抹部分



## 学芸員ノート 復元された弥生時代の住居

第18号(前号)で利根川学芸主幹が「弥生時代復元住居の整備について」というタイトルで書いています。これは、復元住居が完成する前に書かれたもので、タイトルのとおり「整備」に主眼が置かれ、今日に至る経緯等が主な内容でした。今号では、弥生時代復元住居の建築に焦点を当ててみようと思います。

まず建築材なのですが、クリとスギを使用しました。主柱であるたて柱6本とそれをつなぐ梁にクリを使い、それ以外はスギを使用しました。クリは重くて堅いという特徴をもっています。ですので強度が高いのですが、加工が難しくなります。有名な三内丸山遺跡(青森県)で発見された6本柱の檣やぐらと考えられている巨大な構造物は、主柱がクリで造られていました。

スギも、古くから使われてきた建築材ではありますが、今回はとくにスギを指定して使ったものではありません。竪穴住居の壁面の当て材としてスギの樹皮を使ったため、材も利用するというのが主な理由です。ほかに竹も使っています。

屋根材は萱かやが使われています。いわゆる萱葺きということになります。萱とは、アシやススキなど古来から有用に使われてきた植物の総称です。今回使った萱は、俗に山萱やまがやとよばれているススキです。全体のほぼ90%がこの山萱です。このうちの一部に、栃木県藤岡産おぎの荻おぎあし、または荻葺きとよばれる萱を使用しました。残りの10%は稲藁いなわらを使用しました。一般に稲藁はススキやアシなどに比べて油分が少なく耐水性が低いとされています。一方で入手が容易で安価なので、直接雨水の当たらない萱葺きの最下層に下地として使われることが、民俗例などから知られています。今回も下地に稲藁を使用しました。

萱葺き屋根の厚さは

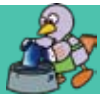
40cmあります。40cmを葺くために使った萱の量は、実際に施工していただいた職人さんによりますと尺締めという単位の束で約750束だそうです。尺締めの一束は直径約30cm、一尺の長さです。萱を計る単位は一樣ではないようですが、伊勢神宮の式年遷宮で御屋根に用いる萱の記載が参考になるようです。

遷宮では内宮・外宮のほか、別宮の御屋根が萱で葺かれます。そこに出てくる単位は、荒萱あらがや一束というもので、直径41cmです。使われる総量は、23,500束だそうです。今回復元住居で使われた萱の量をこの単位に換算してみると約420束、伊勢神宮で使われる量のわずかに1.8%でした。

全国の史跡公園等で縄文時代から弥生時代までの復元された住居のほとんどは、萱葺きです。当館の復元住居もその例に漏れません。当時萱が使われていたという直接の物的証拠にはまだ不完全と言えるでしょうが、銅鐸に残された家屋の表現や民俗例などから萱で葺かれていた蓋然性は極めて高いと思われます。現在では、よしずなどに使われている萱ですが、人と萱との関係は相当古くまでさかのぼるでしょう。いにしえの人々は、萱が水に強いということを遠い昔から知っていたのだと思います。(学習支援担当 伴瀬宗一)



# THE A MUSEUM



## 歴史と民俗の博物館イベント情報(7月～9月)



埼玉県のマスコット  
コペン

■企画展「<sup>サマースクール</sup>にほん美術夏期学校」を、7月14日(土)から9月2日(日)まで開催いたします。

### 7月

- 7日(土) 博物館裏方探検隊
- 11日(水) 特別体験メニュー  
「藍の絞り染めストール作り」
- 14日(土) 企画展「<sup>サマースクール</sup>にほん美術夏期学校」オープン  
企画展展示解説  
民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」  
(7月21日、28日、8月4日、11日)  
博物館裏方探検隊
- 15日(日) ミュージアムトーク
- 20日(金) 特別体験メニュー  
「藍の絞り染めストール作り」
- 21日(土) 企画展展示解説  
博物館裏方探検隊
- 28日(土) 企画展展示解説  
博物館裏方探検隊

### 8月

- 4日(土) 企画展展示解説  
博物館裏方探検隊
- 11日(土) 企画展展示解説  
博物館裏方探検隊
- 12日(日) ジュニア講座  
「課外授業! にほん美術鑑賞いろは」

- 18日(土) 企画展展示解説  
博物館裏方探検隊
- 19日(日) ミュージアムトーク
- 23日(木) ジュニア講座  
「課外授業! にほん美術鑑賞いろは」
- 25日(土) 企画展展示解説  
博物館裏方探検隊
- 26日(日) 特別体験事業「お囃子体験教室」

### 9月

- 1日(土) 企画展展示解説  
博物館裏方探検隊
- 2日(日) 企画展「<sup>サマースクール</sup>にほん美術夏期学校」最終日
- 8日(土) 博物館裏方探検隊
- 15日(土) 博物館裏方探検隊
- 16日(日) ミュージアムトーク
- 22日(土・祝) 博物館裏方探検隊
- 29日(土) 歴史民俗講座  
博物館裏方探検隊

予告: 特別展「職人のわざとカタール商品の誕生」  
10月6日(土)～11月18日(日)

### 博物館への資料寄贈をお考えの方へ

まずはお電話で資料・調査活用担当に御一報ください(TEL:048-645-8171)

詳しくは博物館ホームページ [資料寄贈についてのお知らせ](#) をご覧ください。

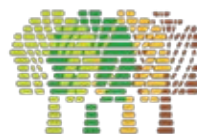
[http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp?page\\_id=261](http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp?page_id=261)



交通機関  
東武野田線・大宮公園駅下車徒歩5分

### 埼玉県立 歴史と民俗の博物館 Saitama Prefectural Museum of History and Folklore (編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地  
TEL. 048-641-0890 (管理)  
048-645-8171 (学芸)  
FAX. 048-640-1964  
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより  
Vol.7-1(通巻)第19号  
2012年6月27日発行